



巻頭言／経営の要諦は「ありがたい姿」を描き、明確な道筋を定めて逆算し、 「保育・高齢障がい」各部門のシナリオ、行動を考えることが重要である	— 2
研修探訪 高齢者部門の聖地「岩戸温泉」に還る せつつ桜苑スタッフ	— 3
ご入居者のご家族の面会室完成 対面面会が可能に	— 3
岩戸ホーム、サンヒルズ紫豊館	
「ありがとうブック」活動に参加	— 3
入院中の子どもたちを応援 認定こども園一津屋愛育園	
先輩からのメッセージ	— 4～5
玉岡彩奈さん(くるみ愛育園)/榎本 篤さん(せつつ桜苑)	
子どもの命を守る「安全管理研修」成光苑保育部門	— 4
「外国人介護スタッフの日本語作文コンクール」	— 5
優良賞にレー・ティ・リンさん(サンヒルズ紫豊館)ほか努力賞2名	
全スタッフ対象に「虐待防止研修」 ライフ・ステージ 夢咲	— 5
グループ交流会でリズム遊び 認定こども園きりん愛育園と東生野愛育園	— 6
出張イベント「秋のわくわくデイ」開催 ライフ・ステージ 舞夢	— 7
トピックス	— 8

移動動物園 ヤギ、ポニー、子牛 約20種の動物が園庭に大集合！

認定こども園きりん愛育園(能勢農場こどもどうぶつえん事業部)がやってきました(10月25日)。ヤギ、ポニー、子牛、豚、モルモット、ヘビなど約20種類が園庭に大集合。

子どもたちが動物に人参やキャベツの餌を与えると「うわぁー食べた!」と大興奮、小さいクラスの子どもたちは「おいしい?」と自分よりも大きい子牛に恐る恐る話しかける場面も見られ(写真)、様々な動物と身近で触れ合える貴重な経験となりました。



高槻の秋の風物詩 コスモスロードを楽しむ

寿みのりの郷デイサービスセンター(認知症対応型)では、高槻市三島江エリアにあるコスモスロード(写真)に送迎車両を利用して出かけました(10月19日から4日間)。地元農家などで組織する高槻レンゲ振興会のレンゲ栽培(春)による有機農法の普及を図るのがねらい。秋のコスモスロードは「花のあるまちづくり」と始められ、今では高槻の風物詩のひとつになっています。



パッと広がるコスモス畑の開放感に、「こんなにきれいな花を見たら思い残すことはないわー」と喜ばれる方もあり、ご利用者の最高の笑顔を見ることができました。

商店街へ「買い物散歩」 八百屋さんからリンゴをもらいチビっ子交流

くるみ愛育園の0歳児クラス(14名)は日ごろ遊んでいる園庭や公園とはちがう商店街へ「買い物散歩」に出かけました(11月21日)。いつもお世話になっている地域の方との交流がねらいです。

子どもたちは商店街の賑わいに目をキラキラ。給食の食材を届けてくださる八百屋さんでは、所狭しと並べられた野菜や果物の数々、「バナナ」「まんま」と言葉にして、「ちょうだい」と手を叩いてアピールする子も。八百屋さんのご主人から袋に入ったリンゴをもらい、保育スタッフが「ありがとうございました」とお辞儀をする様子に子どもたちも頭をペコリ。園に戻り、目の前で皮を剥き3時のおやつにいただきました。ふだん食べない子も自分から手を伸ばし頬張りました。



魔女やお化けの仮装衣装でハロウィンダンス

ココリス(放課後等デイサービス)はご利用の子どもたち5名とハロウィンイベントを行いました(10月31日)。10月上旬ごろから、子どもたちはスタッフと一緒に魔女やお化けの仮装衣装(仮面やステッキなど)の制作を開始、ハロウィンダンスも練習しました。

当日はそれぞれの衣装に身を包み、協力を依頼していた近隣の摂津市立味生公民館へ。練習したダンス「トリック・オア・トリート!」を披露(写真)。同公民館のスタッフからお菓子をたくさんもらって楽しい思い出を作りました。



〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

〔高齢者施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

〔障がい施設経営方針〕

1. その人らしく健やかにともに暮らし、希望をもって社会参加できる環境を提供する。
2. 地域の中で個々のニーズに合った専門性の高い総合的なサービスを提供する。
3. 地域にあって良かったと誰もが笑顔で過ごせる、信頼される施設運営を目指す。

【発行日】2023年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑(理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL: <https://swc-seikouen.or.jp/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻 頭 言



経営の要諦は「ありたい姿」を描き、明確な道筋を定めて逆算し「保育・高齢・障がい」各部門のシナリオ・行動を考えることが重要である

理事長 高岡 國士

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に多大のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

卯年に望む経済・社会の変化に見合った施策を

本年はうさぎ年です。卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」の意味を示します。卯年については、兎は跳ねる特徴があるため、景気が好転または回復すると言われております。昨年もコロナで明け暮れた二年となりましたが、コロナ禍でも経済を回していくとの国を挙げた施策展開が講じられており、1月中旬には2023年度税制改正法案が国会へ提出される予定です。近年の経済や社会の変化に見合ったものとなるよう祈念しているところであります。

既存制度の対象とならないサービスにも対応する決意

成光苑は、激動する昭和、平成、令和にかけてそれぞれの時代の福祉ニーズに応えられるよう、積極的に事業展開を図ってきました。この先、社会時代が変化しても、福祉の原点である「困っ

ている人がいればどのような人でも手を差し伸べること」と「感謝の気持ち」を堅持しつつ、成光苑の事業運営を図っていくてほしいと願うばかりです。

また、「石の上にも三年」の諺にあるように、「我慢強く耐え忍べば必ず成功する」の如く、コロナ禍にあっても期待と希望をもって、社会福祉法人としての使命を全うするため、本年も充実した社会福祉事業が展開できるよう努めてまいりたいと考えています。

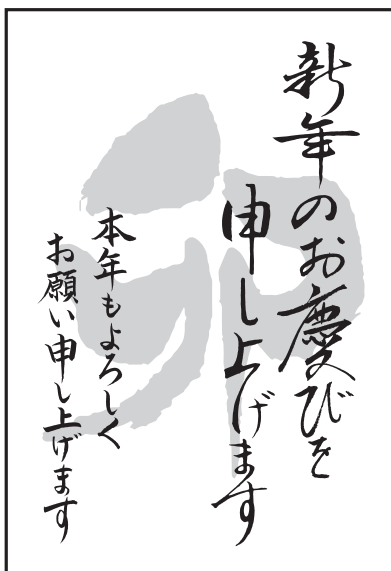
それでも、コロナ禍での法人経営は厳しいものがありますが、いわゆる社会福祉法人の本旨として社会福祉法第24条(経営の原則等)に規定されている社会福祉事業に係る福祉サービスの供給確保の中心的役割を果たすだけでなく、既存の制度の対象とならないサービスに対応していく決意であります。このことが、社会福祉法人の存在意義であり、社会福祉事業を行っていく目的になっていると考えます。

経営で重要なのは「ありたい姿」を描くことであり、そのためには成光苑が何故創業されたのかという「組織の歴史」やその過程から得られた不変の「価値観」の融合が重要であります。団塊ジュニア世代が65歳を迎える2040年における「ありたい姿」を描き、その道筋をはっきりさ

せるため、そこから逆算して法人の各部門(保育・高齢・障がい)のシナリオ・行動を考えることが重要です。

地域福祉の拠点として10年後も「信頼」にされる社会資源になろう

当法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行いながら、地域福祉の拠点として、10年後も地域の住民から「信頼」にされる社会資源になるために、地域に信頼され、愛される園・施設の運営に努めてまいりますので、関係各位には今後とも変わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。



出張イベント「秋のわくわくデイ」開催

介護ワンポイントアドバイスのミニ講座やアマチュアバンド登場

ライフ・ステージ 舞夢



ライフ・ステージ 舞夢は創立記念日(11月1日)にちなみオープンデイ「秋のわくわくデイ」を舞鶴市加佐公民館で開催、42名の方が参加されました(11月5日)。コンセプトは「知ってなっとく!見て、聞いて楽しいライフ・ステージ 舞夢と一緒に楽しいひとときを!」

「介護ミニ講座」では、大垣智義事業課長らがパネリストとして登壇、介護ワンポイントアドバイスなど来場者とのディスカッション形式で講義。

「劇団舞夢 ダンスダンス」では、上野由香子施設長と在日外国人スタッフによるダンスを披露、スペシャルゲストはアマチュアバンドの「森村桜」(写真)。高齢者にも馴染みのフォークソングの名曲が演奏され盛り上がりしました。

「元気やった?コロナで会えなかったね」などこの出張イベントを通じて久しぶりの再会を喜ばれる姿も多く、地域交流の機会にもなりました。

3年ぶりのふれあいまつりに参加

グランドゴルフでホールインワンも



サポートハウスいわと

▲ゲーム中のご入居者

岩戸ホームのサポートハウスいわと(ケアハウス)のご入居者が3年ぶりに開催された地元福知山市金谷地区の「金谷ふれあいまつり」(同地区福祉推進協議会主催)に参加されました(11月6日)。

ご入居者(5名)は、日ごろの練習成果と地域交流を兼ねグランドゴルフ大会に出場、コロコロ転がり高得点を願ってチーム名「どんぐり」でエントリー。ホールインワンされるなど大健闘でした。体育館では作品展や農産物即売会、アトラクション広場では和太鼓やフラダンスなども披露され、久しぶりの外出や地域との交流に笑顔が広がりました。

初の試み「居酒屋イベント」

法被姿のスタッフがおもてなし



吹田竜ヶ池ホーム

吹田竜ヶ池ホームの地域交流スペースで、コロナ感染対策を講じたうえでの開催となった「居酒屋イベント」に8名のご入居者が参加されました(10月31日)。

メニュー札には、お刺身、つくね、出し巻き玉子が用意され、スタッフが法被姿でおもてなし(写真)。お酒も少し入って「飲みに行ったことを思い出すなあ」と喜ばれる方もあり盛況でした。お酒を提供するイベントは初の試みでしたが、ご入居者にとって思い出に残るイベントになりました。



ご利用者制作の塗り絵、習字などを出品展示
地元郵便局のギャラリースペースで

吹田竜ヶ池デイサービスセンター

吹田竜ヶ池デイサービスセンター(地域密着型)では吹田市上手郵便局のギャラリースペースで開かれた作品展(写真)に、ご利用者が制作した塗り絵、習字、工作などの作品を出品展示しました(10月14日～28日)。

個人作品と共同作品を出品し、ご利用者とそのご家族から「見に行ったよ」と楽しまれた様子。また、介護の日にちなみ開催された「介護フェア」(吹田市介護保険事業者連絡会主催)では、市内の他事業所と合同で千里ニュータウンプラザエントランスホール(11月7、8日)、吹田市役所正面玄関ロビー(11月10、11日)にそれぞれ展示しました。

手づくりドーナツに「おいしかった!」

高槻けやきの郷デイサービスセンター

高槻けやきの郷デイサービスセンター(一般型)は「スペシャルおやつウィーク」(11月14日～19日)に「手づくりドーナツ」を提供しました。

「おやつウィーク」は3年前から始め、これまでは外出の買い物が難しいご利用者のためスタッフが有名なお菓子を仕入れて提供していましたが、今回はご利用者同士やスタッフとの関りを大切に考え、ご利用者と



▲型抜き中のご利用者

協働する「手づくりおやつ」にチャレンジしました。「おいしかった!」という言葉が聞かれましたが、段取りや下準備に“てんやわんや”。「次回もっと手際よく、おいしく、楽しく盛り上げたい!」とスタッフの意気込みです。

「笑顔が直接見られ本当にありがたい」



岩戸ホーム

岩戸ホームが管理棟に増築を進めていた家族面会室が完成し10月31日から使用を開始しました。

コロナ対策でこれまでオンライン面会を行っていましたが、2方向入退室やサーモグラフィカメラ、空気清浄機、音響設備などを設け、徹底した感染対策仕様の専用空間(写真)で対面面会できるようになりました。

これによってワクチン接種や面会人数制限など面会の条件が大幅に緩和され、ご家族から「笑顔が直接見られて本当にありがたい」と好評です。

コロナの影響で外出・外泊の制限や施設内イベントの中止、縮小開催となっていました、今後はコロナ以前の生活に近づけられるよう取り組みたいと考えています。

「会えなかった間の様子をたくさん話した!」



サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館の玄関ホール内に感染症予防に配慮した家族面会室(写真)が完成し11月6日から使用を開始しました。

現在は予約制(日曜日のみ)ですが、多数の問い合わせが入っています。

ご入居者、ご家族ともに対面面会を心待ちにされておられただけに、面会室からは笑い声聞かれ、「会えなかった間の様子をたくさん話した」「元氣な姿が見られてよかった」などの声が寄せられています。写真を添えた手紙では伝えきれない情報提供の難しさや家族との関りの大切さをあらためて実感できました。

大阪市「4歳児訪問事業」の手洗い講座

東生野愛育園

東生野愛育園では、「4歳児訪問事業」として大阪市生野区保健福祉センター保健福祉課から保健師と家庭相談室職員が来園、健康教育や絵本の配布を行いました(11月11日)。

保健師は「手洗い」をテーマにエプロンシアター(写真)を披露、リズムに合わせて歌いながら見せると、「この歌知ってる!」「こうやって洗うねんで」と上手に両手を動かす子どもたちの反応に「洗い方よく知ってるね」と感心された様子。

絵本「おなかのこびと」の読み聞かせでは「なんでおなかで痛くなるんだろう」といった子ども目線のわかりやすい食育絵本で、絵本は4歳児全員にプレゼントされました。



ご入居者とご家族結ぶ対面面会が可能に 感染対策仕様を徹底した面会室完成

研修探訪

聖地々岩戸温泉に還る

成光苑高齢者事業の原点、地域活動に尽くした初代理事長の想い引き継ぐ

せつつ桜苑の下村宗治副施設長ほか7名のスタッフは成光苑高齢者事業の発祥地、岩戸温泉(福知山市、現在閉鎖)を現地探訪しました(11月2日)。

成光苑福祉の原点「ソンドブック」和顔愛語に「鉦山の廃鉱の冷泉水(＝岩戸温泉)」が成光苑の高齢者事業の始まりである」と記載されていることに着目、「現存しているなら見てみたい」と興味を湧いたのがきっかけ。このため、「高齢者サービスの原点岩戸ホーム近隣の冷泉、京都の魅力体験」と銘打って研修を企画したものです。

岩戸温泉は岩戸ホームから車で林道を約10分。若むした石垣の間には冷泉の細い水流が小さな水溜まりのように残っていました。「この山中で初代理事長が事業を興された行動力には」と下村副施設長は驚くことしきり。

岩戸ホームは1975年(軽費老人ホームB型)開設、薬剤師でもあった初代理事長、高岡ひさる氏は岩戸温泉に含まれる成分から皮膚病などに効果がある軟膏を自主製造、地域の人々への無料配布活動や「岩戸集いの場」を建設、地域の活性化に尽力されました。現在の「かもものシャトルバス」(交通空白地有償運送)運行やご入居者と地元食品メーカーとの下処理作業の有償請負など地域活動につながっています。

今回の貴重な体験を踏まえ、特に高齢者部門のスタッフには法人設立の想いや歴史遺産のリアルを知ってもらう機会として研修企画に取り上げていきたいと考えています。

▲現在の「岩戸温泉」の様子

▲唯一保管されている軟膏

を自主製造、地域の人々への無料配布活動や「岩戸集いの場」を建設、地域の活性化に尽力されました。現在の「かもものシャトルバス」(交通空白地有償運送)運行やご入居者と地元食品メーカーとの下処理作業の有償請負など地域活動につながっています。

今回の貴重な体験を踏まえ、特に高齢者部門のスタッフには法人設立の想いや歴史遺産のリアルを知ってもらう機会として研修企画に取り上げていきたいと考えています。

「ありがとうブック」活動に参加 不用本を“寄付”し入院中の子どもたちを応援

認定こども園一津屋愛育園

認定こども園一津屋愛育園は、古本など不用本を“寄付”する社会貢献事業「ありがとうブック」の活動に参加しました。入院・治療している子どもたちを応援する試みで、保護者やスタッフから400冊以上の本が集まりました(10月17日～28日)。

同活動は運営会社を通じて行うもので、在園児の保護者からの呼びかけがきっかけ。運営会社(株式会社ホンカウ)が不用本のほかDVD、CD、ゲームなどの買い取り代金をNPOやNGOに寄付し支援する仕組み。今回はNPO法人プロジェクトサンタの「プロジェクト」の景品の補充に協力することになりました。「クリスマス以外に子どもたちを応援する方法はないか」という小児科医師の相談から始まったそうで、関西圏のいくつかの病院に「ガチャガチャ(カプセル自動販売機によるミニ玩具の総称)」を設置、治療を頑張った子どもたちへのご褒美や治療に前向きになれるエネルギーにもなっているようです。



▲集まった本の一部

グループ内交流会でプレゼント交換

認定こども園きりん愛育園 東生野愛育園



認定こども園きりん愛育園(吹田市)は成光苑グループの東生野愛育園(大阪市)の5歳児を招き法人内交流会を行いました(11月18日)。

東生野愛育園からきりん愛育園までマイクロバスで約1時間。到着すると早速、きりん愛育園の子どもたちとリズム遊びが始まりました(写真)。同園はリズムを保育の柱にしていることで知られ、軽やかな子どもたちの動きに「かっこいい!」と東生野愛育園の子どもたちから歓声が。その後、ペアで自己紹介や集団遊び、給食も一緒にいただきすっかり打ち解けた様子。別れ際には互いに作ったプレゼントの交換も行われました。

コロナの影響で希薄になりがちな外部との交流の機会を作るため開いた企画ですが、特に就学前の子どもたちには友だちをつくる経験ができたことは、よい取り組みとなりました。

愛育園グループ3園の5歳児たちが大活躍、計4チームが優勝

認定こども園きりん愛育園

認定こども園正雀愛育園

千里丘愛育園

～吹田市と摂津市でサッカー大会～

認定こども園きりん愛育園の5歳児クラスは、吹田市立総合運動場で行われた「すいたCUP2022」(吹田民間保育園サッカー連盟主催)に出場し、男子Aチームが優勝しました(11月10日)。コロナ対策のため同運動場で表彰式は行われず、園内のランチルームで「おめでとう!」と優勝の栄誉を称え合いました(写真)。

一方、認定こども園正雀愛育園と千里丘愛育園の5歳児クラスは、摂津市青少年グランドで行われたサッカーの第15回摂津カップフレンドリーマッチ(摂津市保育連盟主催)に出場し、正雀愛育園のCチーム、千里丘愛育園のA、B 2チームがそれぞれ優勝しました(11月10日)。

子どもたちはボール運びもシュート数も多く、タイムアップまで全員集中し、優勝カップと賞状を持ち帰ることができました。



「楽しく遊ぼう」に地域からの老人会も参加 認定こども園正雀愛育園の4、5歳児



正雀愛育園の4、5歳児クラスは祖父母と地域の老人会のみなさんを招き、摂津市立正雀体育館で「楽しく遊ぼう」を行いました(11月17日)。

玉入れでは「がんばれー!」と声を張り上げて祖父母を応援するなど盛り上がりました。子どもたちはパラバルーン(写真)、和太鼓演奏を披露。コロナの影響で老人会のみなさんの参加は3年ぶり。「また来られてよかった」と喜ばれ、地域とのつながりを実感した世代間交流となりました。

心待ちしていた秋の収穫体験

近江舞子へ芋掘り遠足

千里丘愛育園の4、5歳児クラス



千里丘愛育園の4、5歳児クラス(計93名)は園バスを利用して「近江舞子いちご園」(滋賀県大津市)へ芋掘り遠足に行きました(10月14日、17日、21日、25日で分散)。コロナの影響で園外レクリエーションを自粛

していたこともあり、心待ちにしていた秋の収穫体験です。

スコップや手掘りで土を掘り起こすと「サツマイモ、すごく大きい!」と大歓声(写真)。掘り起こしたサツマイモは袋に詰め込んでお土産に。自然を感じながら、保育スタッフも笑顔になった遠足でした。

子どもの命を守る 専門職の責務痛感 事故防止の「安全管理研修」

成光苑保育部門

保育部門では「保育施設における事故防止・健康安全管理」をテーマに安全管理研修(オンライン)が行われました(11月12日)。講師は関西学院聖和短期大学保育科の立花直樹准教授。スタッフ79名が参加し、参加できなかったスタッフは録画視聴しました。

保育・教育施設での事故の実態を分析、保育現場で起きた散歩中の交通事故やバス車内園児置き去り事故などは「ミステイク(意図の勘違い)」「スリップ(実行の勘違い)」「ラプス(実行の抜け)」によるヒューマンエラーと指摘。危険増大の原因としては①慣れからくる意識の薄れ、②マニュアルの周知不足、③マニュアルが運用できていない、④職員不足(ギリギリの職員体制)、⑤職員間の人間関係一があげられました。特に事故については「よそ事」として聞き流すことなく、保育現場で子どもの命を守る専門職としての責務を痛感した研修となりました。



▲オンライン画面

好評の 「おとうさんとあそぼう」

認定こども園正雀愛育園

認定こども園正雀愛育園は室内温水プールで「おとうさんとあそぼう」を行い、地域にお住まいの3組の親子連れが参加されました(10月29日)。

「おとうさんとあそぼう」は夏(6月)に続く企画ですが、「ききょう」2022夏号掲載)、今回はプールで水遊び(写真)。初めは父親に抱っこされて水に入り二人でパシャパシャする程度でしたが、保育スタッフがおもちゃを差し出すと、子ども同士で遊びが始まり、自然におとうさんたちの距離も縮まって和やかな雰囲気になりました。ふだん関わりの薄い父親同士の交流にもつながり、都合で参加



できなくなった父親から「ぜひ、またやってほしい」と参加意欲、期待が高まっています。

プール遊びに地域の3組の親子が参加

先輩からのメッセージ



玉岡 彩奈
くるみ愛育園
2022年度入社

子どもたちの発見や感動を読み取る対応力
こんな温かい職場で働きたいーがキメ手に

ー自分のどんな所が

今の仕事に生かされていると感じますか？

学生時代の飲食店のアルバイト経験で、お客様の表情や何気ない仕草からその要望を感じ取り対応をする力が保育の中でも生かされていると感じます。

現在、0歳児クラスの担当ですが、幼い子どもたちにとっては毎日が楽しい発見と感動の連続です。私が考えたのですが、引っ張って遊べる洗濯バサミのおもちゃや段ボールの中に蔓のついたさつま芋を新聞紙で作っておいたら、子どもたちは夢中になって遊んでいます。その姿を見たとき、本当に嬉しくなり、やりがいを実感

ー学生のみなさんにメッセージを

就職活動を進める中で、気になった園は必ず見学に行きました。現在働いている園にも来ましたが、スタッフのみなさんに、就職への思いや不安な気持ちに寄り添い、親身になって話を聞いてもらったことで、本当に心が軽くなりました。こんなに温かい雰囲気の園で働きたい、と思ったのが就職を決めた大きな理由です。友だちの就職内定が決まり始めると焦る気持ちも出てくると思いますが、自分のペースで納得のいく就職活動をしてほしい。そして残りの学生生活を思う存分楽しんでください。

ーご入居者の声をよく聴き、寄り添い不安を取り除きたい
多職種間でも尊重、連携し合う雰囲気の魅力だった

ー自分のどんな所が

今の仕事に生かされていると感じますか？

施設の生活は自宅と大きく異なります。長年施設で生活されている方でも家族に会えない寂しさやこれからの生活に不安を持たれていることも少なくありませんので、私はご入居者の声を積極的に聴くことを意識しています。

気持ちに寄り添うことで少しでも不安を取り除くことができれば、生きる喜びをより大きくすることができると考えています。ようやくご入居者との関係は良好だと感じられるようになってきました。業務で手一杯になることもありますが、日々研鑽し、想いにしっかりと向き合い信頼されるスタッフになりたいと思います。

ー学生のみなさんにメッセージを

私が今の職場を就職先に選んだのは、施設実習でお世話になった際に、「ご入居者のために各分野が専門性を発揮して多職種間でも尊重し合うて連携されていたこと、スタッフの表情や雰囲気がとてもよかったです。」
就活で施設見学はとても大事ですが、半日か一日と短くので施設の特徴を捉えるのは難しい。私は実習先で働きたいと思える職場と出会い、私は、気になる施設があればインターンシップ、職場体験事業(大阪福祉人材支援センター運営・企画)もあるので活用して働きたい施設を探してみるのもつかと思えます。理想の施設と巡り合えることを願っています。



▲傾聴する参加スタッフ

19名の外国人介護スタッフが発表 「グローバル人財発表会」

い」とエールが送られました。

発表は各自5分間、「家族のためにもスキルアップして稼きたい」「日本は介護先進国なのでしっかり学びたい」「経験を積み重ね、後輩の育成にも協力したい」など、家族への想いや介護人材育成にも尽くしたいといった頼もしい声も聞かれました。

優良賞にレー・ティ・リンさん(サンヒルズ紫豊館)
吉村エヴェリンさん(ライフ・ステージ 舞夢)と
カオ・ティ・ビックさん(岩戸ホーム)が努力賞

主催 京都介護サ



「第3回介護施設で働く外国人による日本語作文コンクール」(京都介護サービス協同組合主催)に京都エリアの3施設から応募した外国人介護スタッフのうち、サンヒルズ紫豊館のレー・ティ・リンさん(写真右)が優良賞、ライフ・ステージ 舞夢の吉村エヴェリンさんと岩戸ホームのカオ・ティ・ビックさんが努力賞を受賞しました。

レーさんは受賞の知らせに「第3回介護施設で働く外国人による日本語作文コンクール」(京都介護サービス協同組合主催)で行われた表彰式(10月26日)では「日本の生活」をテーマに、言語・環境・生活習慣の違いに戸惑いながらも介護の仕事に携わっている内容について発表しました。

吉村さんのテーマは生い立ちや日本で働きながら介護の資格を取得したことへの自信などに触れた「人生のストーリー」。

「経験を積み、 後輩の育成にも尽くしたい」

成光苑高齢者部門

高齢者部門では、岩戸ホームのすずらんホールで、令和4年度「グローバル人財発表会」が行われ、南猛文法本部事務局長ら39名が参加、19名の外国人介護スタッフ(留学生、技能実習生、特定技能介護など)が「将来の夢」「日本での生活」などをテーマに日本語で発表しました(10月29日)。

冒頭、南事務局長から「みなさんと一緒に社会福祉に従事できることは大変嬉しい。介護技術・知識を高め母国のため、成光苑のために頑張ってください」

全スタッフ対象に「虐待防止研修」

ライフ・ステージ 夢咲

「自分の行動が第三者にどう見えているかを常に意識したい」と受講者

ライフ・ステージ 夢咲(高

齢・障がい)は京都府中丹東保健所福祉課長西邑章氏を講師に迎え「虐待防止研修」(写真)を全スタッフ対象に実施しました(11月22日)。

同施設の権利擁護委員会では管理職・ご入居者のケアに携わる現場スタッフだけでなく、世話人(居室清掃や洗濯業務など)の非常勤パートスタッフにも研修の機会を充

実させるため企画、受講でき

なかったスタッフは録画を視聴しました。

西邑氏は、行政の実地指導員と精神福祉士としての現場経験に基づき双方の立場から「非常勤・パートなどが深く理解していないことで虐待が起るケースもある。施設全体で虐待防止について周知する機会を設けてほしい」と説明されました。初めて受

講した障がいグループホームの

スタッフ(世話人)は「自分の行動が第三者からどう見えて

いるか、常に意識していきたい」といった感想も。ご入居者の中には、言葉の不自由な方も生活されています。不適切なケア・対応から虐待に繋がることのないよう全スタッフが質の向上に努め、ご入居者の安心・安楽な生活を見守ります。



「福祉フィールドワーク」 受け入れ

せつつ桜苑

せつつ桜苑は大阪人間科学大学社会福祉学科1年生(14名)の授業の一環として「福祉フィールドワーク」を受け入れました(11月16日)。

学生さんたちは施設内を見学後、介護機器(移乗用リフト)のお試し体験も行いました。「何キロ(体重)の方まで持ち上げることができますか」「介助の際、先に足の位置を上げるのはなぜですか」など積極的な質問が飛び交い、実りのある実践体験となったようです。

同施設の藤原義章施設長は「高齢者事業は40年以上になります。若い皆さんはしっかり学び、今後に活かしてほしい」とエールを送られました。

大阪人間科学大の1年生が実践体験